

手取川改修工事計畫概要

內務省新潟土木出張所



D1

47

手取川改修工事計畫概要

緒言

手取川は石川縣第一の大河にして其中樞平野を貫流するを以て灌漑の利甚だ多きも一朝洪水に際會せんか人命を毀損し耕地を礫化し被害甚大なるものあり本川の改修は曩に明治二十四年の洪水に鑑み和蘭人工師「デレーケ」の計畫に基き明治二十九年洪水防禦の目的を以て改修に着手工費八十二萬余圓を以て明治三十五年工を了へ其後數次増築補修をなせり然れ共水源山地の荒廢と河口の閉塞とに依り河床の昇高著しく遂に昭和九年七月の大洪水に遭遇し百餘名の死者と二千二百八十七萬餘圓の損害

とを來し新に改修の必要を生ずるに至り政府も之を認め昭和九年度より昭和二十年度に至る十二箇年度繼續事業として總工費四百九拾五萬圓を以て石川郡鶴來町以下海に至る十六籽に亘る區間の改修を行ふ事となれり

流 路 及 流 域

手取川は北陸地方有數の大河にして上流を牛首川と言ひ名峰白山に其源を發し右支尾添川を合せて後手取川の名を稱し北流すること約十籽にして左支大日川を入れ更に峽谷の間を北流し鶴來町に至りて平野に出で河幅を倍加し方向を西に急轉し石川能美兩郡の沃野を貫流し國道橋手取川橋を過ぎて後海岸に連亘する砂丘に妨げられて一大彎曲を畫き美川町に

至り海に注ぐ幹川の流程凡七十一籽なり

本川流域は石川縣石川能美の兩郡に跨り面積八百九平方籽内山地七百四十三平方籽を占むれども加賀平野を貫流するを以て灌漑の利甚だ多く其面積九千百十九「ヘクター」に達す

然れども流域の九割以上は山地にして水源地方に於ける年雨量平均三千籽を超へ最大日雨量三百五十籽に達するを以て高水流量甚だ多く加ふるに上流勾配は甚だ急峻なるのみならず水源山地の荒廢により屢々巨量の土石流を生ず

河狀斯の如きを以て屢々洪水の慘禍に會し明治二十九年の大洪水に於ては被害面積七千六百九十「ヘクター」に達し一眸の沃野一朝にして石礫の河原と化し又昭和九年に於ては未曾有の大洪水に會し水害面積五千

五百「ヘクター」損失價格二千二百八十七萬餘圓の巨額に達し大正十四年より昭和九年に至る十箇年に於ける平均壹箇年水害損失額二百三十九萬五千圓を算す

改 修 計 畫

本改修計畫に於ては高水流量を每秒四千五百立方米と定め高水勾配百三十八分の一乃至四百三十五分の一とし河幅狹隘なる鶴來町附近二、五籽の間に於ては一部引堤をなし以下流十一籽の間は主として現在堤塘の増嵩擴築をなし河口附近二、五籽の區間に於ては流路の迂曲と河幅の過大とを矯めんが爲左右兩岸共右遷して新堤を築き計畫高水量の疏通を全からしむ

砂礫埋没の爲上昇せる河床は掘鑿低下して河積を増大し以て河狀を整備し流路の蛇行を矯め堤防の安全を期せんが爲には兩岸要所に水制を出だし新堤及復舊堤に護岸を施行し且既設護岸を補強して洪水防禦の効を收めんとす

尙冬季の卓越風に依り河口狭められ流下砂礫其上流へ沈澱堆積し河狀を惡化すること著しきを以て河口を浚深し其兩岸に突堤を築設して水深と流速の増加を計り以て河口の閉塞を防止し改修効果の維持に努めんとす堤防の斷面は全川を通じ一樣にして天端幅十米表裏法共勾配を二割とし天端より二、五米（計畫高水位以下〇、五米）を下りて川表には五米川裏には四米の小段を設け且川表には護岸を施行するのみならず川裏にも相當高の石張を行ひ堤防天端高は計畫高水位以上二米とす

河幅は上流終點附近に於ては二百米を標準とし以下次第に擴大し断面十二軒にて三百米、断面八軒附近を三百三十乃至三百五十米となし断面四軒手取川橋附近にて四百五十米とし河口に至り水深を増大し河幅を狭めて四百米とす

此外右岸断面二、二軒以下に清水川、茨川、北川の附替工事、左岸断面一、四軒以下に熊田川、西川の附替工事を施行し水路の統一並に合流點の附下げを行ひて霞堤の整理と排水の改善とを圖り断面○、○軒附近の安産川に對して逆水門を築造す

附帯工事は國道橋手取川橋の扛上縣道橋天狗橋美川橋及能美電鐵々道橋の繼足を主なるものとし其他樋管水路道路の新築改設等をなすものとす

改 修 の 効 果

改修區域内七千六百十「ヘクタール」の耕宅地に於ける洪水氾濫の害を除去し各年の災害復舊費並に耕宅地其他の損耗に基く水害を免るゝのみならず農産物の生産著しく増加し河口附近は突堤の築造及河床の浚渫により河口の維持容易となり平時洪水時共に著しく改善せられ交通機關の安全、各種産業の發達、衛生狀態の改善等沿岸住民の享くる利益莫大なり